

環境の工夫・視覚的支援・操作活動を基本とした指導

算数 第3学年

輪島市立大屋小学校・教諭

1 事例の概要

(1) 指導の基本

知的障害と自閉症を併せ有する児童2名に会い指導を考えたとき、先ず自閉症の障害特性である対人関係やコミュニケーションの困難さ、こだわりなどに目を向けた。さらにA児の興味関心や出来ることに注目して、環境の工夫と視覚的支援、操作活動などを指導の基本とした。

(2) 児童の実態（3年初めの実態）

生活行動	学習状況	集団生活
<ul style="list-style-type: none"> ・多動傾向はあるが少しずつ落ち着いてきている ・時々情緒不安定になる ・感覚的な遊びを好む ・偏食多いが食欲は出てきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指示は理解し難いが何回か手本を示すと理解する ・「日常生活の指導」「生活単元学習」を中心に学習 ・手先が器用 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思伝達は困難だが反響言語は出る ・写真カード使用練習開始 ・大人数をあまり好まない ・手を引いて要求を伝える

(3) 指導目標

- ① 生活習慣や身辺処理などの基本的行動様式を身につけ、自立への基礎を培う。
- ② 学習態勢を身につけ、生活に活かせる文字や数などの基礎学力の定着を図る。
- ③ コミュニケーションの力を広げ、集団生活への適応を目指す。

A-1 学級経営案

2 実践内容 算数「教えよう」の学習

(1) 単元の目標

- ① 操作活動を楽しみながら、数に関心を持つ。
- ② 順番カードを見ながら落ち着いて学習ができる。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 教室環境の工夫

落ち着いて生活できるように、教室内を学習・自由遊び・運動などのコーナーに分け、その場所では何をするかを決めた。また教材や遊び用具の配置場所も一定にした。

② 視覚的支援

言語によるコミュニケーションが困難なため、学習や作業の順番を絵や写真カードで提示し繰り返した。また、A児の要求も写真カードとそれで覚えた単語で伝えるよう指導し、教室から出かけるときも、行き先を自分で選んで貼ってから出るようにした。

③ 学習内容の工夫

算数の学習では興味・関心と結びつけた操作活動を多く取り入れて学習を進めた。操作する具体物は、A児が好む音の出る物や光るガラス玉、手先の器用さを活かした洗濯バサミなどを組み合わせて活用した。また意欲を高めるため、学習内容を幾つか準備しておき、時にはA児に選ばせて学習した。

④ 生活と結びつけた指導・評価

学習したことは出来るだけ実生活と結びつけて指導した。数の学習を活かしながら給食当番のストロー・デザート配りをしたり、回数シールを貼りながら掃除の乾拭きをしたりして、数が生活に役立つことを経験させた。またその活動を褒め、「ありがとう」と声をかけた。

B-1 教室環境

B-2 視覚的支援

B-3 教材教具

3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	支援○・評価◎
2 操作活動をする。	○決まった数だけ入れよう。 (写真カードを示した。) ・おはじきを数えながら卵パックに入れた。(10まで) ・タイルを1個ずつフィルムケースに入れ蓋をした。(1の数) ・ガラス玉を3個ずつ数えながらカップに入れた。(3の数)	○学習の内容が分かるように写真カードを順番に貼って提示した。 ○10までの順序数を確認するために一緒に繰り返した。 ○数を意識づけるため出来るだけ声に出して学習させた。 ○手指の微細運動や目と手の協応も図った。
3 振り返り片付ける。	3個まで入れることができたよ。順番に数えたよ。	◎数に関心を持って操作活動ができたか。(態度、操作物)

C - 1 指導案

4 成果と課題

(1) 教室環境の工夫

教室を棚や机で仕切り、それぞれの場所が活動と1対1の対応をするようにした。また、学習位置からはテレビや遊具が目に入らないように配置した。これらのことで集中力が増し、学習を最後までやり遂げるなど落ち着いて取り組むようになった。

(2) 視覚的支援

学習などの順番を写真カードで掲示することにより見通しが持てたのか、以前より意欲的に学習するようになった。また行きたい場所をカードで示してから出かけるようにしたところ、勝手に教室から飛び出すことは少なくなり、情緒の安定にも繋がった。その他自分の欲しい物や要求などもカードで示せるようになったことで、周りの人たちとの関わり方も穏やかになってきている。今後は、写真・カードと共に言葉や文字なども多く使ってコミュニケーション出来るように指導していきたい。

(3) 学習内容の工夫

数の学習は10までを具体物・半具体物・数図・数字を関連付けながら進めてきた。また、A児が好む操作活動を中心に学習内容を工夫することにより、楽しんで学習を続けた。しかし、その操作はできても数の概念や生活面での応用にはなかなか繋がりにくいので、今後は更に実生活と関連づけて指導していきたい。

(4) 生活と結びつけた指導・評価

学校での当番活動などに授業中学習したことを活かせるようにした。掃除では回数シールが貼れることを喜んで最後までやり遂げ、ストロー配りでは、自分の班だけではなく他の班にも配るなどの意欲をみせている。また、これらのことが出来たことで周りからも認められ、自信を持ったようである。しかし、一つの活動が次の活動に応用され難いので、今後も色々な体験を取り入れて学習したことが身に付いていくようにしたい。

5 その他

*参考文献 「自閉症児の教育と支援」全国知的障害養護学校長会編